

令和4年8月1日

8月ちびっこの森通信 vol.201

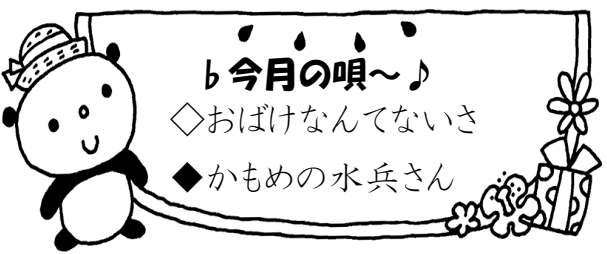
★★今月のテーマ★★

- ・夏ならではのプールや川での水遊びを楽しみ、水に慣れる！
- ・汗をかいた時は着替えや水分補給を心掛ける



～今月の園内学習～

- ・たし算…2の段
- ・かけ算…2の段
- ・数字カード…1～20の数字
- ・食べ物カード…今月の旬な食べ物
- ・漢字カード…小学校1学年で習う漢字30
- ・魚へんの漢字…「はたはた」「はや」
- ・木へんの漢字…「かし」「ぶな」
- ・歴史カード…「坂本龍馬」他
- ・ひらがなカード…「わ行」
- ・国旗カード…スイス他
- ・ヨーロッパ各国
- ・地理カード…愛媛県ほか四国地方
- ・絵画カード…「白樺の林」他

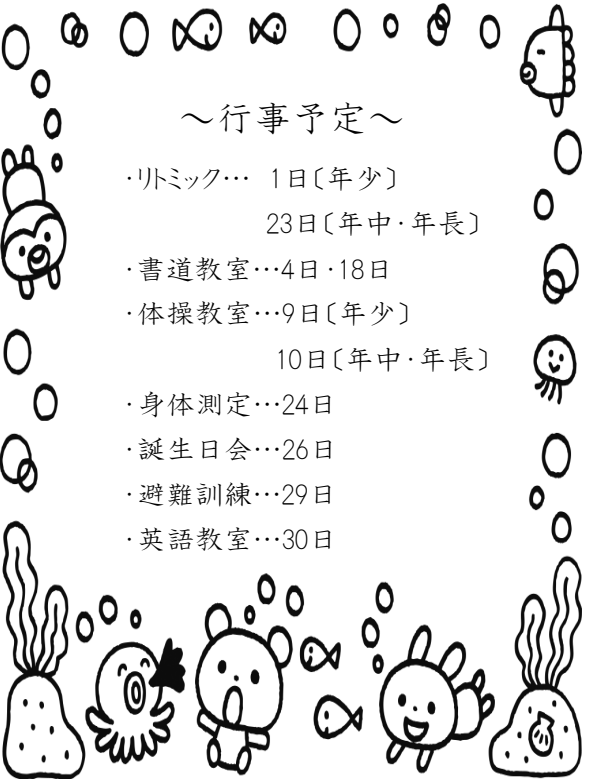


～保育のポイント～

「鈴木メソード」という幼児教育で有名な鈴木鎮一先生の言葉「どの子も育つ、育て方ひとつ」とはバイオリンを習う時期を小中学生よりも早めることで習熟度が変わってきたことを実感されたことを示しています。換言すれば、(言葉、芸術や対人関係など)環境の影響が生涯の中で最も強く作用し、かつ、その作用の結果がその後、生涯にわたって維持されるような期間(感受性期、0歳～8歳くらいまで)があること表わしています。これは8歳頃まで狼に育てられたカマラが暗闇でも目が見え、舌で水をなめたりする狼のような行動をし、発見後に言葉など教育を受けたものの、その発達は極めて不完全なままだったという悲劇的な事例からも言えることです。ですから、この時期に母国語以外に英語などに親しむ環境により流暢なバイリンガルの可能性は増し、絶対音感や運動神経に絵ごころなどの感覚的センスも同様と言えます。幼児期の過ごし方の一考になれば幸いです。

～行事予定～

- ・リミック… 1日〔年少〕
- 23日〔年中・年長〕
- ・書道教室…4日・18日
- ・体操教室…9日〔年少〕
- 10日〔年中・年長〕
- ・身体測定…24日
- ・誕生日会…26日
- ・避難訓練…29日
- ・英語教室…30日



さくら組だより



早い梅雨明け後に待っていたのは非情で容赦のない酷暑の夏。そんな暑さを前にし、怯むのが本来なのでしょうが、子どもたちには水あそびという強い味方がいるせいか、元気そのものに過ごしています。水あそびの前後の身の回りのことも自らの手で準備したり、片付けたりと出来るようになってきているのも頼もしいです。七夕会では、お家の方と一緒に考え、したためた短冊などを笹に願いを込めながら飾っていきました。どうぞ願いが叶いますように！行事食では旬の食材を使った天の川素麺や見た目も涼やかなゼリーでしたが、中には苦手な子もいて一切、手をつけようとしない場面もありました。そこは「一口でも食べ、どんな味がするのか」確かめて食べる、食べないを判断するような試みもしました。食べる際の作法のフークや箸なども一生懸命に取り組んでいます。お家でも是非、一緒に取り組んでみて上げて下さい。これからも猛暑対策をし、体調管理を進めていきますのでよろしく願います。



ひまわり組だより



朝からけだるさを誘うようなサウナ状態は目覚めと共に戦意喪失感が漂う感じですが…子どもたちにはリフレッシュタイムの水あそびがあるおかげで元気パワーをチャージしているようです。みんながみんな諸手を挙げて、水あそびを満喫している訳ではなく、中には「水、かけないでえ～」と逃げ回る子には顔は避け、足元で涼を取るようになっています。他には、体操教室の「鉄棒」で10数えながら、ぶら～んとぶら下がったり、手の力だけで身体を支えてキープする「つばめ」というポーズに挑戦したりと頑張っています。それだけでなく先生に身体を支えてもらいながらクルリンバと鉄棒の逆上がりをしたりと挑戦内容も豊富。こんな自らが積重ねる練習から一人ひとりの腕力や体幹が鍛えられ、基礎体力向上が知らず知らずの間につけられるんだなぁ～と傍で見ていて感心させられます。これは先生の朗らかなキャラクターと一人ひとりの課題にあった指導があったからこそ、体操教室の魅力をみんなが感じ、頑張っているんだなぁ～とこれからも見守っていきたいと思います。



ゆり組だより



連日の猛暑日記録が「いよいよ来たな、夏本番」と改めて気づかされる今日この頃。そんな暑さも水あそびマジックにかかれれば、あっという間にグツリ感も吹っ飛ぶようです。それは、お互いにカップでの水の掛け合いにはじまり、水鉄砲で爽快感を味わい、最後は身体全体に水を浴びてすっきりするからだと思っています。一方、水あそび後の室内ではレゴやブロックでの創造活動に没頭するのもいいリフレッシュ効果を発揮しているのでしょう。年長児になるとはじまる「よみ」「かき」の習字教室のおかげで「ひらがな」への興味関心も以前にもまして増しているようです。ですから、自ら絵本を手に読んだり、下の月齢児に保育士よりよく読み聞かせをしている姿が散見されるようになりました。また、お絵かきでは色使いも微妙に細やかなで繊細さをましてきているのも素晴らしいことですが、何よりも「これ、自分が描いたんよお」を示すかのようにな名前が画用紙の下欄に書くようになってきていることも年長児として着実に成長を積重ねてきていることを物語っています。とはいえ、まだまだお友だち同士のやり取りの中ぶつかり合う場面もないことはないので自身と他者の意見の調整をすることも今後の就学生活では必要なことなのでよく見守っていきたいと思います。



給食室だより



ギンギン＆ギラギラの太陽の下、ぐったりするような高温多湿の真夏本番を迎えようとしています。最近、暑さ指数などで熱中症警報がなされ、こまめな水分補給の必要性が示されています。というのも、人間の体重の約6割は水分(血液や唾液などの消化液、細胞内の水分)で占められ、通常1日に優に2リットルが出ていくために1リットル以上の水分補給が必要とされることから代謝が繰り返される夏場は特に多めの補給が必要とされます。その機能は、身体の隅々に栄養素や酸素を運んだり、不要な老廃物を排出してくれたり、体温維持など身体を正常に維持機能する上で大変重要で必要不可欠と言えます。夏場に起きる脱水には「ふらつき」や「めまい」の軽いものから血圧低下、さらには意識低下といった重度の症状へ発展していきます。これらは(1.脳体 2.胃腸 3.筋肉など)体液の多い臓器の不調がそれらの症状を引き起こすと考えられることから、なおのこと水分補給はこまめにして体調の非常事態は回避していく必要があります。そこで、日頃の水分補給の基本は「喉が乾いたら一気に水分補給」と考えがちですが、これは尿として排出されるので効果は見込めません。水分は常温でこまめに摂ること、また食事を欠かさないこと、だそうです。体内の保水には食べ物の水分が有効とされているからです。たくさん汗をかいた時は、汁物で塩分などのミネラルを補給すると良いでしょう。今が旬のトマトやきゅうり、なすなどの夏野菜やスイカには体の体温を下げる働きもあり水分補給に最適です。適切な水分補給で暑い夏を乗り切りましょう。